



## 六麓荘地区・地区計画

芦屋の山手に広がる六麓荘(芦屋市六麓荘町)は、東京の田園調布と並ぶ全国屈指の高級住宅地。今年2月、土地売買を敷地面積400平方以上に二戸建てしか新築できないように規制する市条例が施行され話題になった。

六麓荘は1928(昭和3)年、

森本喜太郎が「六麓荘」社を設立し、国有林の払い下げを受けて開発した。香港・九龍島の外国人居留地をモデルにして、道路幅を6以上にとった。景観の配慮から電柱をなくし電気や電話線を地下に埋設した。町内に住民が利用できる



写真・文 山田哲也

43

るテニスコートやローラースケート場(児童用プールなどもあった。39(昭和14)年、伊丹の堀抜義太郎(製帽業)が7階建ての「国際ホテル」を開業した。月給50円の時代、1泊300円もする高級ホテルだった。戦後、芦屋大などの校舎として使われ、阪神大震災

後に取り壊された。同町ではバブル崩壊後、相続税や事業資金調達のため、土地を開放す住民が増えた。一時、700万円(3・3平方)した地価が、現在は100万円前後に下落している。

町内の物件を多く手掛けた芦屋不動産の深見徹五郎会長によると六麓荘は相変わらずの人気で、広い土地を探している人が多く、売り手市場が続いている。地価が下がっても土地取得だけで1億円は超えてしまう。庶民にとって六麓荘は高根の花だ。

# 地価下がっても高根の花



芦屋市がお屋敷のたたずまいを残して整備した「六麓荘緑地」。徳川幕府が大坂城再築に使った東六甲採石場の資料も展示している。同市六麓荘町3